

平成28年度 長野北幼稚園 「園の自己評価」

園の教育目標

(1) じょうぶな体の子 (2) やさしい心の子 (3) 心豊かな賢い子

1. 本年度の重点目標

(1) 遊んで学び「できた」「つくれた」「わかった」がいっぱいの子どもに

- | | |
|---------------|---------------------------------|
| ① 運動的遊びと食育で | 体力や運動能力を伸ばし、お腹をすかせてしっかり食べる。 |
| ② 創造的な遊びで | 描いたり作ったり歌ったりして感性を豊かにし創造力器用さを培う。 |
| ③ 環境に働きかける遊びで | 情操や感性を豊かにする。 |

2. 自己評価

A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組んでいるが、成果が十分でない D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。	A
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。	A
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	A1
安全管理	・事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	A
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。	A
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。	A
研修（資質向上への取組）	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施をしている。	A
	・日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	B
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	A
	・保護者アンケートの実施と、学校関係者委員会（モニター会）を設置している。	A
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	A
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。	A
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	A
保護者・地域住民との連携	・PTAや学校関係者委員会（モニター会）等で定期的に懇談会を実施している。	A
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	B
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	A
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。	B

4 学校関係者評価（モニター）からの評価

- (1) 食育については、長年の取り組みが定着しているから目新しい感じはしないが、野菜など食材に関心もてる子どもになっていることが嬉しい。運動・遊びが充実することで食欲も増し、食に関する興味関心が高まる。同時に、自分たちで栽培した食材であれば一層効果的だと思うので、是非継続して取り組んでもらいたい。
- (2) 我が子は自由遊びの時間を本当に楽しみにしている。友だちと仲良くする、遊びの内容ややり方を工夫する、汗をかいて体を動かして丈夫になる。そんな意味から大切な時間だと思う。そんなことから我が子は長期休みでも園に行きたいと言うほど、登園を楽しみにして有難い。
- (3) 3つ目の目標「心豊かな賢い子」が知的ねらいのところだとお聞きしたが、多分色々なお考えの保護者がいるので、ストレートには表現しにくいところだと思う。でも、意識して取り組んでもらって良いことだと思う。
- (4) せっかく専科の先生方がいるので、お部屋の指導に回数多くはいつてもらえたらと思う。
- (5) 先生方が明るくて、伸びやかな雰囲気をつくり出してくれている。キャッチフレーズの「心豊かに伸びやかに」をこれからも大事にしていてもらいたい。
- (6) 連絡ノートを毎日書いてくれる先生と、こちらで書かないと書いてくれない先生がいる。3日に1回は書いてくれたらと思う。
- (7) 母親も子育てで悩みがある。そんなときに相談にのってくれる先生がいてくれると嬉しい。若い先生も有難いが経験豊かな先生がいてくれたら更に有難い。
- (8) ドライブスルー、とても便利で有難い。この点は園児募集においてアピールしていったらと思う。車列が長くなることはよくないので、スムーズに流れるようにすることが大事なことは理解しているが、車に乗せて終わりではなくて、一言でもいいから何か子どもの様子を話してもらえると嬉しい。
- (9) 本年度も、我が子が生き生きと喜び勇んで登園しているので本当に嬉しい。大人数のクラスで先生は大変だと思う。

うが、感謝している。

5 今年度の総合的園評価と来年度への課題

- (1) 園目標の「丈夫な体の子」に関しては、「取り組めた」という充実感がある。園庭で元気一杯遊べること、好き嫌いを減らしていくことは保護者の要望も強いものがあり、次年度も園目標として据えて取り組みたい。
- (2) 園内研修が思うようにできなかった点は大きな反省点である。次年度は保育研究会当番園であり、充実させたい。目標の③「好奇心いっぱい生活し、気づき考え表現する子ども」は、職員の理解が十分でなく、意識が薄かった点、大きな反省点である。
- (3) 専科職員が、園職員の一員として積極的に専科関係以外の仕事に取り組んでくれたことが、職員の一体感を強くし、活気ある職員集団にしてくれた。多忙な専科職員を支える園長・主任でありたい。
- (4) 保護者の声にあったように、明るく元気いっぱい勤める職員集団であることが、園の爽やかな空気をつくり出しており、この点が子どもの教育、そして園児募集にも直結する大事なポイントであると考えている。今後も大事にしていきたい。
- (5) 地域の子育て事情等が、高齢化している園周辺地域の方もつかめていないようで、情報を得ることが難しい。園保護者の情報が一番の頼りであり、協力をお願いしていきたい。
- (6) ドライブスルーや連絡ノートに関して、毎年のように要望が届く。園での子どもの様子を知りたいという要望である。ドライブスルーに関しては、もっとスムーズにしてほしいという要望もあり、また連絡ノートを書く時間の確保はなかなか難しいので、無理のないところでできるだけ要望に応えられるように努力したい。
- (7) 園舎等環境に関しての声は聞かれなかった。部分の修繕改修を積み上げてきた成果ではあるが、老朽化は進行することから、常々点検をして安全と清潔感を確保していきたい。